

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2022/12/31	2023/11/30	2023/12/15	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	26,094.50	33,486.89	32,970.55	33,853.46	2023/11/20	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	33,147.25	35,950.89	37,305.16	37,347.60	2023/12/15	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	131.12	148.20	142.15	151.95	2022/10/21	102.59	2021/1/6

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 米雇用統計を受けて米景気の減速懸念が和らいだことや、FOMCの結果を受けて米長期金利が低下・米国株市場が上昇したことから上昇~

先週の日本株市場は、日経平均が+662.69円 (+2.05%)、TOPIXが+7.81ポイント (+0.34%) となり、米雇用統計を受けて米景気の減速懸念が和らいだことや、FOMC (米連邦公開市場委員会) の結果を受けて米長期金利が低下・米国株市場が上昇したことから上昇しました。業種別でみると、機械、サービス業、海運業などの18業種が上昇した一方、保険業、銀行業、食料品などの15業種が下落しました。

週初11日は、先々週末発表された米雇用統計で労働市場の底堅さが示されたことを受けて米景気の減速懸念が和らぎ、米国株市場が上昇したことや円高ドル安の進行が一服したことなどから上昇して始まりました。週中にかけては、米国株市場の上昇が続いたことや日銀短観大企業製造業景況感が3四半期連続で改善したことなどが上昇要因となった一方、FOMCの開催を12-13日に控えた様子見姿勢が相場の重しとなり、狭いレンジで一進一退しました。14日は、FOMC後に発表された参加者による金利・経済見通しで利上げの終了と2024年末までの0.75%の利下げが示唆され、円高ドル安が急進したことにより下落しましたが、週末15日は、FOMCの結果を受けた米長期金利の低下と米国株市場の上昇に対する見直し買いの動きが優勢となり、上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
12月18日	Mon	日本	日本銀行、金融政策決定会合(19日まで)		
		ドイツ	IFO企業景況感指数	12月	87.3
12月19日	Tue	米国	住宅着工件数	11月	1,372千件
		日本	貿易収支	11月	▲6,610億円
12月20日	Wed	欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	12月	▲16.9
		米国	消費者信頼感指数	12月	102.0
			中古住宅販売件数	11月	3,790千件
12月21日	Thu	米国	フィラデルフィア連銀製造業景況感指数	12月	▲5.9
			景気先行指標総合指数	11月	▲0.8%
		日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	11月	+2.9%
12月22日	Fri	米国	PCE(個人消費支出)物価指数(前年比)	11月	+3.0%
			耐久財受注(前月比)	11月	▲5.4%
			新築住宅販売件数	11月	679千件

決算発表予定 他 海外 決算発表 : 12/19 フェデックス 12/20 マイクロン/テクノロジー 12/21 ナイキ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 日銀金融政策決定会合を通過した後は、金融政策修正への過度な警戒感が和らぐことなどから、徐々に反発 ~

今週の日本株市場は、日銀金融政策決定会合を通過した後は、金融政策修正への過度な警戒感が和らぐことなどから、徐々に反発するとみえます。

今週は、18-19日に開催される日銀の金融政策決定会合に注目が集まります。今月上旬には、正副総裁が揃って金融政策の正常化に向きとれる発言を行ったことで、マイナス金利の解除を含めた政策修正への警戒感が高まりました。また、先週のFOMCが事前予想と比べてハト派的な内容となったことを受け、日銀はFRB (米連邦準備理事会) が利下げに転じる前に行動に移すとの見方も浮上しています。当社では、次回1月以降の金融政策修正に向けた地ならしが行われる可能性があることとみており、会合直後は若干の円高ドル安進行と、これを嫌気し日本株が弱含む可能性があることとみています。ただ、マイナス金利解除後の継続的な利上げを織り込むことは時期尚早とみており、影響一巡後は金融政策修正への過度な警戒感が和らぐことで、株価は徐々に反発に向かうとみえます。なお、足元の米金利先物市場は、米景気減速への警戒感からFOMCで示された以上の利下げペースを織り込んでいますが、今後も米経済指標が堅調さを維持すれば過度な米利下げ織り込みは剥落し、ドル安圧力は一定程度弱まるとみています。その他の注目材料として、日本では20日の貿易収支、22日のCPI、米国では19日の住宅着工件数、20日の中古住宅販売、消費者信頼感指数、22日の耐久財受注、欧州では20日のユーロ圏消費者信頼感指数、ドイツでは18日のIFO企業景況感指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会